

5-1 研究顧問／産学連携研究アドバイザーによる点検評価

分子科学研究所では、法人化の前から所長が研究面を諮問するために研究顧問制度を導入している。第一期中期計画期間では国内3名の研究顧問が、所内の各研究グループによる予算申請ヒアリングに参加し、それぞれについて採点し、所長はその採点結果を参照しつつ各研究グループに配分する研究費を決定してきた。第二期中期計画期間は国際的な研究機関としての研究面を中心に諮問することとし、国外委員も追加することとした。第三期中期計画期間から国内外各1名で運用している。これに加えて第四期中期計画期間（2022年度～2027年度）より、分子科学の分野において特に優れた研究業績を有する者又は産学連携関係に特に精通した者に、研究所の産学連携研究に関する指導、助言等をお願いする「産学連携研究アドバイザー」を新たに設けた。産業界で研究所長などの責を担っているアドバイザーから見て、基礎研究が中心となっている分子科学研究所の個々の研究者の研究課題や成果がどのように受け止められるのかをフィードバックして頂くための制度である。また、アドバイザーが有するネットワークを通じて、分子科学研究所の研究が産業界に広く知られることも期待するものである。産学連携研究アドバイザーには、予算申請ヒアリング（2024年5月9-10日開催）に同席して頂き、評価の過程に加わって頂くと共に、社会実装や産業利用に資する可能性のある研究成果の発掘をお願いしている。その結果として、企業による分子研各施設の利用や研究者間の交流が始まっている。

研究顧問（2024年度）

北川 進 京都大学副学長，特別教授

LISY, James M. Research Professor, University of Illinois Urbana-Champaign

産学連携研究アドバイザー（2024年度）

菊池 昇 株式会社トヨタコンポ研究代表取締役所長

福田 伸 株式会社三井化学分析センター技術顧問